

目 次

【1】開催要綱	2
【2】ショーテーマ	3
【3】ショーの特徴	4
【4】出品状況	5
【5】特別企画	6
【6】プレス対応の概要	10
【7】プレスブリーフィングスケジュール	11
【8】交通アクセス	12
【9】各種サービス	14
【10】会場管理	16
【11】防災計画	21
【12】東京モーターショーの記録	33
【13】会場計画図	

開催要綱

1. 名 称 第35回東京モーターショー - 乗用車・二輪車 - (2001年)
The 35th Tokyo Motor Show -Passenger Cars & Motorcycles- (2001)
2. 主 催 社団法人 自動車工業振興会
3. 総 裁 寛仁親王殿下
4. 会 長 奥田 碩(社団法人日本自動車工業会 会長)
5. 副 会 長 宗国 旨英(社団法人日本自動車工業会 副会長)
塙義一(社団法人日本自動車工業会 副会長)
園部 孝(社団法人日本自動車工業会 副会長)
渡邊 一秀(社団法人日本自動車工業会 副会長)
鈴木 孝男(社団法人日本自動車工業会 副会長)
大野 陽男(社団法人日本自動車部品工業会 会長)
揚妻 文夫(社団法人日本自動車車体工業会 会長)
前田 英治(社団法人日本自動車機械器具工業会 理事長)
江頭 啓輔(日本自動車輸入組合 理事長)
6. 会 期 平成13年10月26日(金)~11月7日(水)
(1)報道関係者招待日 10月24日(水)~25日(木)
(2)特別招待日 10月26日(金)
(3)一般公開 10月27日(土)~11月7日(水)
7. 開場時間 (1)報道関係者招待日 9時00分~18時00分
(2)特別招待日(特別招待者) 9時00分~18時00分
" (一般招待者) 12時30分~18時00分
(3)一般公開日(平日) 10時00分~19時00分
" (土・休日) 9時30分~19時00分
(時間は止むを得ない場合は変更し、時には入場を制限することがあります)
8. 入場料 一般(高校生以上) 1,200円(前売 1,000円)(消費税込)
小・中学生 600円(前売 500円)(消費税込)
当日16時以降会場壳 一般1,000円 小・中学生500円(消費税込)
9. 会 場 千葉県・幕張 幕張メッセ 日本コンベンションセンター
10. 後 援 経済産業省、国土交通省、外務省、東京都、千葉県、千葉市、
国際自動車工業連合会(OICA)、日本貿易振興会(ジェトロ)
11. 協 賛 日本自動車輸入組合、日本電動車両協会、日本自動車研究所、日本自動車会議所、
自動車技術会、日本自動車販売協会連合会、日本道路公団、首都高速道路公団、
全日本交通安全協会、日本自動車連盟、日本損害保険協会、日本モーターサイクルスポーツ協会、
全国軽自動車協会連合会、日本自動車整備振興会連合会、板硝子協会、
日本アルミニウム協会、特殊鋼俱乐部、日本ゴム工業会、
日本自動車タイヤ協会、石油連盟、電池工業会、日本鉄鋼連盟、日本電機工業会、
日本電球工業会、電子情報技術産業協会、日本塗料工業会、日本ばね工業会、
日本ファインセラミックス協会、日本プラスチック工業連盟、日本ベアリング工業会、
日本陸用内燃機関協会 (順不同)

社団法人自動車工業振興会は、(社)日本自動車工業会、(社)日本自動車部品工業会、
(社)日本自動車車体工業会、(社)日本自動車機械器具工業会の4団体および119社の
法人で構成されている。

OICA:Organisation Internationale des Constructeurs d'Automobiles

ショーテーマ

Open the door! くるま。未来を「ひ・ら・く」

Open the door! The Automobiles Bright Future.

第35回東京モーターショーは、乗用車・二輪車ショーとして、21世紀冒頭の2001年に開催される。

新しい時代の幕開けを多様なくるまのドアが、次々と開かれるイメージと重ね合わせた。

地球全体の環境にやさしい社会を構築するために、一人ひとりの生活行動を質的に変革しなければならない。

Open the door! は、環境保全に対応した「変革のドア」を「ひ・ら・く」ことでもある。

「変革のドア」を開くと、新しいライフ・スタイルが見える。

くるまの創り手と乗り手が、共に創造する未来が見える。

「ひ・ら・く」という動詞の強調表現に、地球市民としての行動の重要さと、21世紀に生きる人間としての「決意」をこめた。



第35回東京モーターショー ポスター

ショーの特徴

世界13カ国から272社、6政府、2団体が参加し、乗用車、二輪車、電気自動車、それに部品・関連商品を含め最先端の商品・技術が展示される。

今回のテーマ館は、「その時 - 日本の技術が時代のトピラを開いた。」 - みえない名車を見る - と題して、初の純国産車「オートモ号」の展示を含め、実車や実物を中心に数々の技術を展示し、自動車に関する技術革新の足跡を通して、来場者に日本の創意工夫や先人達の熱意と努力をわかりやすく解説する。

1. 展示場構成

幕張メッセの国際展示場（西ホール・中央ホール・東ホール、北ホール）とイベントホールの3館5ホールの全施設で構成する。展示館と展示部門の配置は次の通り。

展示館		展示部門
国際展示場	西・中央・東ホール	乗用車、部品
	北ホール	二輪車、部品
イベントホール		テーマ館、電気自動車

2. 出品状況

出品展示面積は42,110m²で、出品会社数は272社、6政府（ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、スウェーデン、アメリカ）、2団体（日本電動車両協会、日本自動車部品工業会）である。

- (1) 出品参加国は、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、韓国、オランダ、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス、アメリカ、日本の13カ国。
- (2) 乗用車は、西・中央・東ホールに国内10社、海外27社、28,205m²の出品となる。
- (3) 二輪車は、北ホールに国内4社、海外7社の計11社、4,030m²の出品展示となる。
- (4) 部品は、西・中央・東ホールの3ホールには音響・情報機器、ボディ部品・用品、電気、タイヤ・ホイールが、北ホールには外国政府出品をはじめ電装・機関、走行・操縦装置、動力伝達装置が展示される。
- (5) 電気自動車は、イベントホールに日本電動車両協会会員出品の電気自動車及び関連装置・部品が展示される。また、電動車両の試乗はメッセ常設駐車場を起点にして公道で実施される。

3. 特別企画は3つ

- (1) テーマ館 「その時 - 日本の技術が時代のトピラを開いた。」 - みえない名車を見る - イベントホールの1,100m²に、四輪車22台、二輪車12台、部品を展示する。
テーマ館では初めてショーステージを設置し、ゲーム等の来場者参加型の企画を実施。
- (2) 幼児くるま絵画展
千葉県、千葉市、千葉市幼稚園協会の協賛を得て、千葉市内の幼稚園の年長児が描いた「ぼくたち、私たちの夢(未来)のくるま」をテーマにした3,443作品を展示する。
- (3) シンポジウム「トーケイン 2001」開催
「Open the door ! これからくるま、これからの生活 - 世代によるクルマの魅力と価値観 - 」をテーマに会期中の10月31日(水)に、来場者を対象に会場隣接の幕張プリンスホテルで14時から17時の間で開催する。

4. 関連企画(詳細は6~9ページに掲載)

- (1) 展示会場廃棄物削減：省エネ・省資源・ゴミなし展示会を具体的に前進させる。
- (2) こども広場の設置：北ホール2階にミニカーコーナーを併設し、キッズコーナーとした。

出品状況

出 品 区 分		第 33 回 ショー		第 35 回 ショー		33 回 比較(増減)	
		出 品 面 積 m ²	会 社 数	出 品 面 積 m ²	会 社 数	m ²	(%)
乗 用 車	国 産 車	14,650	9	14,775	10	125	(100.9%)
	外 国 車	13,565	31	13,430	27	135	(99.0%)
	計	28,215	40	28,205	37	10	(100.0%)
二 輪 車	国 産 車	3,240	4	3,245	4	5	(100.2%)
	外 国 車	765	9	785	7	20	(102.6%)
	計	4,005	13	4,030	11	25	(100.6%)
部 品	自 工 振 会 員	268 小間	64	333 小間	76 社 1 団体	65 小間	(124.3%)
	部 品・機 械 器 具	242 小間	81	229 小間	75	13 小間	(94.6%)
	関 連	119 小間	34	128 小間	34	9 小間	(107.6%)
	小 計	629 小間	179	690 小間	185 社 1 団体	61 小間	(109.7%)
	関 連	175 小間	55	136 小間	39	39 小間	(77.7%)
	政 府	72 小間	6 政府	69 小間	6 政府	3 小間	(95.8%)
	小 計	247 小間	55 社 6 政府	205 小間	39 社 6 政府	42 小間	(83.0%)
	計	876 小間 (7,884 m ²)	234 社 6 政府	895 小間 (8,055 m ²)	224 社 6 政府 1 団体	19 小間 (171 m ²)	(102.2%)
電 気 自 動 車		720	1 団体	720	1 団体	-	(100.0%)
屋 内 展 示	出 品 面 積 計	40,824		41,010		186	(100.5%)
	特 別 企 画 計	1,100		1,100		-	(100.0%)
	合 计	41,924	287 社 6 政府 1 団体	42,110	272 社 6 政府 2 団体	186	(100.4%)
総 合 計		41,924	287 社 6 政府 1 団体	42,110	272 社 6 政府 2 团体	186	(100.4%)

(屋外展示 : 3,470m²)

出 品 参 加 国	33 回 ショー : 15 ヶ 国	35 回 ショー : 13 ヶ 国
	オーストリア、ベルギー、カナダ、フランス ドイツ、イタリア、韓国、ルクセンブルグ オランダ、スペイン、スウェーデン、スイス イギリス、アメリカ、日本	ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア 韓国、オランダ、スペイン、スウェーデン スイス、イギリス、アメリカ、日本

政府出品 : ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、スウェーデン、アメリカ

特別企画

1. テーマ館：「その時 - 日本の技術が時代のトピラを開いた。」 - 見えない名車を見る -
20世紀の自動車に関する技術革新の足跡をわかりやすく解説し、来場者に日本の優れた創意工夫と先人達の熱意、努力を紹介する。

イベントホール内 1,100 m²を使用し、四輪車 22 台、二輪車 12 台、部品の展示で構成し、テーマ館としては初めてショーステージの設置やゲームなど来場者参加型の企画を行う。

展示構成：

1) センターゾーン

(1) 初の純国産量産車「オートモ号」の展示

オートモ号を構成する一つ一つの部品はもちろん、生産技術にいたるまで全て「国産」にこだわった白楊社と豊川順弥氏の熱意と努力にスポットを当てて紹介する。

また、オートモ号関連資料の展示、映像（平成 13 年度自工振広報ビデオ）を通して、先人達の築いた技術開発の足跡も紹介する。

(2) 自動車技術発達史（年表）

オートモ号に至るまでの歴史や、戦後の日本自動車技術発達史を平易に解説する。

(3) ショーステージ「久留間先生のそれって本当？」

意外と知られていない、けれど知つていれば役に立つ自動車技術をショーステージ形式で紹介する。自動車の技術やメカニズムが苦手な人にもわかりやすく説明する。

(4) 来場者参加型

パソコンゲーム

ショーステージ脇の 3 台のパソコンで、自由に参加できるクイズゲームを行う。

クルマに詳しい人も、そうでない人も楽しく役に立つ知識を得ることができる。

クルマの仕組み体験コーナー

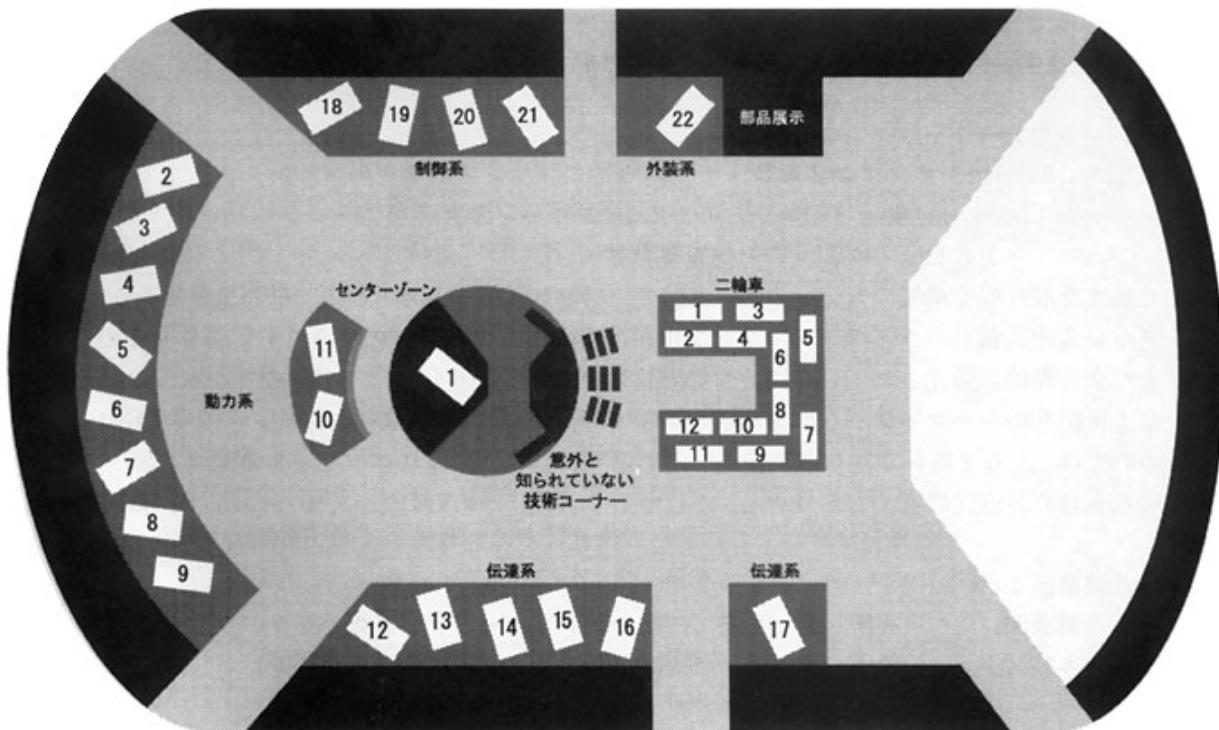
同じくショーステージ脇で、エンジンやトランスミッション、デフギヤなどの動態構造模型を実際に手で動かしてもらい、その仕組みを理解してもらうコーナー。

2) 技術展示ゾーン

日本が世界に誇る数々の自動車技術を、「動力系」「伝達系」「制御系」「外装系」に分けて、実車・実物や映像、パネル等で紹介する。

3) 自動車技術発達史をまとめたパンフレットを会場で無償配布する。

テーマ館展示内容



No.	四輪車展示車両 (発売年 メーカー)
1	オートモ号 (1924年 白揚社)
2	トヨタ 2000GT (1967年 トヨタ)
3	マツダコスモスポーツ (1967年 マツダ)
4	三菱ギャラン GTI (1976年 三菱)
5	ニッサンセドリック (1979年 日産)
6	ダイハツシャレード (1984年 ダイハツ)
7	ホンダシビック SiR (1992年 ホンダ)
8	マツダユーノス 800 (1993年 マツダ)
9	三菱ギャラン (1996年 三菱)
10	ホンダシビック CVCC (1973年 ホンダ)
11	トヨタカリーナ (1994年 トヨタ)
12	スバルジャスティ (1987年 富士重工)
13	いすゞジェミニ (1987年 いすゞ)
14	ニッサンセドリック (1989年 日産)
15	スバルレオーネ 4WD (1972年 富士重工)
16	ダイハツミラ RV4 (1992年 ダイハツ)
17	スズキスズライト (1955年 スズキ)
18	トヨタカローラ (1966年 トヨタ)
19	トヨタソアラ (1983年 トヨタ)
20	ニッサンスカイライン GT-R (1973年 日産)
21	スズキワゴン R (1993年 スズキ)
22	ホンダ NSX (1990年 ホンダ)

No.	二輪車展示車両 (発売年 メーカー)
1	ホンダ CB450 (1965年 ホンダ)
2	ホンダ RC149 (1966年 ホンダ)
3	ヤマハトレール 250 DT1 (1968年 ヤマハ)
4	スズキ RE-5 (1974年 スズキ)
5	ホンダ CBR400F (1983年 ホンダ)
6	カワサキ VOYAGER (1986年 カワサキ)
7	ヤマハ GX750 (1976年 ヤマハ)
8	カワサキ Z250LTD TWIN (1982年 カワサキ)
9	ホンダ CB750 (1969年 ホンダ)
10	ヤマハ RZ250 (1980年 ヤマハ)
11	ホンダ NR (1992年 ホンダ)
12	スズキ RG250 (1983年 スズキ)

部品展示 (メーカー)
ブレーキ (曙ブレーキ工業)
オイルシール (NOK)
ラジエーター (カルソニックカンセイ)
ディセールインジェクションシステム (ボッシュオートモーティブ システム)
ジェネレータ (デンソー)
スプリング (日本発条)
プラグ (日本特殊陶業)

2. 幼児くるま絵画展

幼児くるま絵画展は第28回ショー（平成元年）より継続実施しており、今回が7回目となる。地元との交流を深め、幼児のくるまに対する夢の発表の場とすることを目的に千葉県、千葉市、千葉市幼稚園協会の協賛を得て、千葉市内の幼稚園の年長児が描いた「ぼくたち、私たちの夢(未来)のくるま」をテーマに53幼稚園、3,443作品を展示する。(第33回は52幼稚園、3,101作品)

3. シンポジウム - トークイン 2001

平成13年10月31日(水)、14時よりショー会場隣接のプリンスホテルのプリンスホールで開催。

1) テーマ : Open the door ! これからのくるま、これからの生活

- 世代によるクルマの魅力と価値観 -

くるまを取り巻く環境の変化（少子・高齢化、階層化社会の進展）や、ITの進展によるボーダレス化、新しいライフスタイルの登場が、くるまや生活にどのような影響を与えるのか。また全世界的に強化されている環境対応と自動車技術等の現状認識・展望などを取り上げ、21世紀初のトークインとして積極的な議論を展開する。世代によるくるまの価値観の違いについては、くるま離れが進むと指摘される若者や、くるまに憧れ育った団塊の世代、さらに高齢者も含め各世代の考え方を分析し、これからの時代に求められる、くるまの魅力を探っていく。

2) 基調講演とパネリスト

(1) 基調講演 米倉 誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究センター長・教授）

(2) パネリスト 宮台 真司氏（東京都立大学人文学部社会学科助教授）

高橋 毅氏（日本キッズカート協会理事）

菊川 怜氏（女優）

館内 端氏（自動車評論家）

(3) 総合司会 勝 恵子氏（キャスター）

3) プログラム

(1) 基調講演（30分）

(2) パネルディスカッション 問題提起（55分）、ディスカッション（75分）

(3) インターネットによる一般市民の意見や質問に関する議論・応答（15分）

4. 関連企画

1) 展示会場廃棄物削減

従来から「省エネ・省資源・ゴミなし展示会」については「出品と展示規程」に記載し、出品者の認識を高める取り組みを行ってきているが、ゴミ廃棄の環境に与える影響の大きさに鑑み、東京モーターショーとして「ゴミなし」展示会の実現に向けた行動をスタートするものである。

(1) 廃棄物についての認識

21世紀を迎え、あらゆる産業、生活、行事において、環境汚染とゴミ廃棄の問題は見逃すことのできない状況にある。展示会イベントしての東京モーターショーにおいても大量の産業廃棄物が発生する。

例えばカーペットや、展示ブース装飾残材の処理は分別しなければ処理できないなど廃棄物処理経費も膨大になっている。

(2) ゴミなしに向けて

東京モーターショー全体として、ゴミを少しでも削減し、最終的には「ゴミがほとんど出な

い展示会」を目指すことを目的に、以下の行動をスタートさせる。
展示会による廃棄物の 3 R を展示小間の企画・デザイン段階から考慮したい。

リデュース（削減）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）

東京モーターショーを計画し実施する出品者と主催者にとって、3 R を目指して計画を推進することは「社会的責務」ともいえる。

ただし、3 R 達成のために東京モーターショーの「いきいきとした活気」や「あふれる楽しさ」が欠けてはならない。

出品各社と事務局が協同して「ゴミなし」展示会に向け、「意識」と「認識」をもって、来場者の期待にも十分応えることが重要と考えている。

後日、出品各社に廃棄物についてのアンケート調査を実施する予定なので、ご協力賜りたい。

2) こども広場（キッズコーナー）の設置

乳児・幼児サービスセンターと幼児くるま絵画展を北ホール 2 階(エスプラナード)に移設し、より広く明るい雰囲気とした。

同時にミニカーコーナーも併設し、子供連れの大人も楽しめる広いスペースを用意し、この一帯をこども広場（キッズコーナー）とした。

3) 救護所、献血コーナーの設置

中央救護所は前回よりわかりやすい北ホール南側 1 階に移設し、南救護所は中央ホール南側に設置する。

前回同様、日本赤十字社の献血コーナーを、中央救護所の 2 階で実施する。

前回の献血実績は 12 日間で 1,312 人と目標を大きく上回り、特に若い人の参加が多く、日本赤十字社では前回の 110% を目標としている。

プレス対応の概要

1. 出品者の事前広報

第35回東京モーターショーの出品者が、自社の出品物等の展示内容をショー開催前に、報道関係者に発表できるのは、プレスデー1週間前の下記日時以降となっている。

・新聞	10月17日(水)発表	10月18日(木)朝刊掲載
・雑誌	10月17日(水)以前の原稿	10月19日(金)以降発売
・テレビ、ラジオ、インターネット等	10月17日(水)発表	10月18日(木)午前6時以降放送

但し、第35回ショー出品に關係のない通常の新製品の発表は、この限りでない。

2. プレスデー

10月24日(水)と25日(木)の2日間をプレスデーとし、一般公開に先立ち報道関係者の皆様にご覧頂く。

時間は9時から18時までで、入場ゲートは北1ゲート、北2ゲート、西1ゲート、東ゲートの計4ヶ所。

プレスブリーフィング

2日間にわたってプレスブリーフィングを行う。

1社の持ち時間は自社ブースの場合は25分、国際会議室利用の場合は1時間。

1) 音量の規制

プレス取材のための静かな環境を創出するため、次の規制を設ける。

(1) ブリーフィング実施中の前後左右の隣接する小間の音出しは禁止する。

(2) 今般、米国の同時多発テロ事件で、犠牲になられた方々に弔意を表すとともに、ご遺族や関係者に哀悼の意を表すため、華美な演出を避け、音量の上限を規程の最高80dB(A)から、最高77dB(A)に致したく、ご協力をお願いする。

2) プレス関係者飲食サービス

出品者によるプレスへのケータリングサービスは2日間とも可能。但し、千葉市保健所に届け出ること。(詳細は「出品ニュース」参照)

なお、事務局では国際会議場2階のコンベンションホールで、2日間とも「プレスランチサービス」を12時から13時の間に提供する。

3) 記念品、手提げ袋の配布

記念品の配布は禁止する。

配布資料用の手提げ袋は、プレスデー2日間に限り出品者が自社で通常使用しているものに限る。なお、プレスデー2日間の事務局配布資料については、事務局手提げ袋を用意する。

4) 自社小間以外での説明会、パーティー等の開催

1日目は9時~18時の開場時間中は禁止。2日目はブリーフィング終了後は自由とする。

3. プレスセンター

国際会議場2階の「国際会議室」にプレスセンターを開設する。

プレスセンターでは情報発進の場、情報交換の場として各種の設備・サービスを用意する。

プレスブリーフィングスケジュール

The 35th Tokyo Motor Show Press Briefing Schedule

第1日 10月24日	西ホール West Hall	中央ホールCenter Hall	東ホール East Hall	北ホール North Hall
First day 24, October	乗用車 Passenger cars	乗用車 Passenger cars	乗用車 Passenger cars	二輪車 Motorcycles
9:30 ~ 9:55			VW	
10:00 ~ 10:25	マツダ	ヒュンダイ	ベントレー	
10:30 ~ 10:55	フォード	ポルシェ		
11:00 ~ 11:25	ジャガー	アウディ	スズキ	
11:30 ~ 11:55	ランド ローバー	三菱	オペル	
12:00 ~ 12:25		ダイムラー・クライスラー	いすゞ	
12:30 ~ 13:00	(ランチタイム)			
13:00 ~ 13:25	日産	AMGメルセデス・ベンツ (共同実施)	サーブ	BMW
13:30 ~ 13:55	ルノー		GM	ハーレー
14:00 ~ 14:25		フェラーリ、マセラティ (共同実施)	富士重	ヤマハ
14:30 ~ 14:55	BMW		光岡	本田
15:00 ~ 15:25	フィアット	トヨタ・ダ・イチ (共同実施)		川崎
15:30 ~ 15:55			ブジョー	スズキ
16:00 ~ 16:25		本田		ドゥカティ
16:30 ~ 16:55		シトロエン		
17:00 ~ 17:25		ランボルギーニ		

第2日 10月25日	西ホール West Hall	北ホール North Hall
Second day 25, October	部品 Parts	部品 Parts
9:30 ~ 9:55		スウェーデン政府*
10:00 ~ 10:25		カナダ政府*
10:30 ~ 10:55		ドイツ政府*
11:00 ~ 11:25		アメリカ政府*
11:30 ~ 11:55		アイシングループ
12:00 ~ 12:25		フランス政府*
12:30 ~ 13:00	(ランチタイム)	
13:00 ~ 13:25		
13:30 ~ 13:55		デルファイオートモーティブ
14:00 ~ 14:25		カルソニックカンセイ
14:30 ~ 14:55		
15:00 ~ 15:25		デンソー
15:30 ~ 15:55		日立グループ
16:00 ~ 16:25		ボッシュオートモーティブ
16:30 ~ 16:55	住友ゴム	

" " : 通訳レシーバーは、各出品者小間で借用し、その出品者小間で返却して下さい。

* : 政府出品

交通アクセス

会場周辺の開発が進むにつれて駐車場の確保は年々難しくなっているので、鉄道輸送、バス輸送等の公共交通機関の増強を計り、来場者にこれらの積極的利用を呼びかける。

また来場者は便利なJR京葉線に集中するため、横浜、新宿方面からの来場者にはJR総武線の利用を案内し、分散化と混雑緩和をはかる。

横浜方面からの来場者には、新たに事前予約制のバスを往復運行し、来場方法のひとつとしてPRを図る。

JR東日本千葉支社に輸送力の増強ならびに利用者サービスの強化を申し入れた結果、次の対策が講じられることになった。

(1) 臨時列車の運転による混雑の緩和

- ・京葉線 土・休日 上下 14 本運行
- ・武蔵野線 平日 上下 12 本運行
土・休日 上下 28 本運行

(2) 特急列車の海浜幕張駅臨時停車

会期中上下一部停車

1. 鉄道

JR

(1) 横浜方面からは、横須賀線／総武線・快速(津田沼駅乗換)で、新宿方面からは総武線・各駅停車で幕張本郷駅へ。

(2) 東京駅からは、京葉線・快速で約30分の海浜幕張駅下車、会場まで徒歩5分。

(3) 府中本郷方面からは武蔵野線が、海浜幕張駅に直接乗り入れる。(一部、南船橋駅乗換)

地下鉄

(4) 有楽町線が新木場駅でJR京葉線に、東西線が西船橋駅でJR総武線・武蔵野線に接続。

京成電鉄

(5) 上野・日暮里方面、成田方面からは、京成津田沼駅経由で幕張本郷駅下車。

2. 有料シャトルバス

(1) JR総武線・京成千葉線「幕張本郷駅」より会場まで運行する。

料金は大人240円、小人120円

(2) 帰路は幕張本郷駅のほか、JR総武線「津田沼駅」行きを運行する。

料金は、大人330円、小人170円

(3) 横浜方面からは、今回初めて事前予約制にて横浜(YCAT)～幕張会場まで往復バスを運行する。料金は片道1,500円(大人・小人同一)

予約受付は10月1日(月)から乗車日前日の15時まで受付可能。

予約及びお問い合わせは京成電鉄(株)営業課まで。

<問い合わせ先> 京成電鉄(株)営業課 03-3621-2418(平日10時～17時)
<http://www.keisei.co.jp>まで。

3. 駐車場

常設駐車場(メッセ駐車場)6,000台・地下駐車場1,100台の他に、臨時駐車場11,200台を設け、土・休日のみの無料臨時駐車場1,700台を新習志野駅周辺に設けるが、遠隔化・分散化せざるを得ない。自家用車での来場は、土・休日を避けるように積極的に呼びかける。

1) 出品関係者駐車場



出品関係者駐車場は西 - 2 駐車場とする。（上図参照）

駐車場の利用に当っては「出品関係者駐車券」をフロントガラスに必ず提示すること。提示のない場合及び他の駐車場は有料とする。

の道路は交通規制あり
交通状況により、経路が変更になる場合があります。

2) 一般来場者用駐車場

駐車場		収容台数	開場時間	駐車料金（1日 / 円）		
				乗用車	バス	二輪車
常設	メッセ駐車場	6,000台	4時～23時 (休前日は24時間)	900	3,700	200
	地下駐車場(南)	500台	7時～22時	300/1h	-	-
	地下駐車場(北)	600台	7時～22時	300/1h	-	-
臨時	北1駐車場	4,900台	8時～20時	600	-	-
	北2駐車場	1,700台	8時～20時	600	-	-
	西1駐車場	1,800台	8時～20時	600	-	-
	西2駐車場	1,000台	24時間	600	-	-
	西3駐車場	600台	8時～20時	600	-	-
	西4駐車場	1,200台	8時～20時	600	-	-
	臨時1駐車場	900台	土・休日の臨時稼動	無料	-	-
	臨時2駐車場	800台	土・休日の臨時稼動	無料	-	-
合計		20,000台				

北1・2及び臨時1・2駐車場については、遠隔地のため無料送迎バスを運行する。
二輪車駐輪場（無料）は北ホール西側、シャトルバス乗降場隣とする。

各種サービス

1. 休憩ゾーン

- 会場の中央と南及び北ホール周辺を中心に休憩ゾーンを設ける。
- 南及び北ホール東側の休憩ゾーンには軽食堂、売店、休憩ベンチを配置する。
- 休憩ベンチは合計 10,800 人分を特設、併せてイベントホールのスタンド約 4,000 席を休憩所とする。

2. 食堂・売店

会場内にはレストラン 4 店舗、売店 6 店舗が常設されているが、需要に対応するため下記の仮設施設を設置する。

仮設施設設置場所	施設内容
南休憩ゾーン	軽食堂 - 1、売店 - 12
西休憩ゾーン	大型店舗 - 1
北ホール休憩ゾーン	売店 - 3
合計	大型店舗 - 1、軽食堂 - 1、売店 - 15

また、国際会議場 2 階「コンベンションホール」には出品関係者専用食堂を開設する。

開設期間：10月26日（金）～11月7日（水）

営業時間：喫茶タイム 9:00～17:30

ランチタイム 11:00～15:00

支払方法：現金及び第 35 回ショー食事券（有効期間 10/16～11/10）

食事券取り扱い店舗（入口にステッカー添付あり）

会場内：常設レストラン、常設売店、仮設食堂・売店、出品関係者専用食堂

会場外：周辺ホテル飲食施設（幕張プリンスホテル、ホテルニューオータニ幕張、
ホテルザ・マンハッタン、ホテルグリーンタワー幕張、ホテルフランクス、
ホテルスプリングス幕張）、ワールドビジネスガーデン、プレナ幕張

3. インフォメーション、めぐりあいの場

インフォメーションは、各ゲートおよび事務局本部前の 9 力所に配置する。

北 2 ゲート近くに「めぐりあいの場」を設け、インフォメーション、伝言、迷子の保護などのサービスを行う。

4. 救護所（プレスデーより開設）

北ホール南側と国際展示場中央ホール南側の 2 力所に救護所を開設し、医師と看護婦を常駐させる。

5. 乳児・幼児サービスセンター（プレスデーより開設）

乳児の世話などができるサービスセンターを北ホール 2 階（エスプラナードのキッズコーナー内）に設ける。

保母を常駐させ、希望により 3 歳から 6 歳までの幼児を預かる。

- 授乳・オムツの世話や母子の休憩施設。
- 3 歳から 6 歳まで未就学児童を 2 時間を限度に預かる。

【乳児・幼児サービスセンター施設概要】

開設時間：10 時から 19 時（土・休日は 9 時 30 分から 19 時）

設備：ベビーベッド、おもちゃ類、授乳用給湯ポット、ロッカーなど。

運営管理：平日は 6 名、土・休日は 8 名で対応する。

6. コインロッカー

常設に臨時コインロッカーを加えて、1,900個を展示ホール周辺に設置する。

7. 郵便局・宅配便・観光案内所・キャッシングコーナー

事務局本部前に郵便局、宅配便取扱所、千葉市観光情報センターを設置する。

また中央エントランス（2階）にはCD（キャッシングディスペンサー）1台が常設されているほか、隣接するワールドビジネスガーデンには千葉銀行、シティバンクの各支店がある。

8. 自動車ガイドブック・同CD-ROM・ハンディバッグ・エコバッグ販売所

会場内の7カ所に販売所を設け自動車ガイドブックの引換・販売、同CD-ROM、ハンディバッグ及びエコバッグの販売を行う。

9. 東京モーターショーグッズの販売

東京モーターショーグッズを会場内5カ所で販売する。取扱品目は東京モーターショーロゴや、ビジュアルデザインを配した文具類、Tシャツ等の衣料品や雑貨。

10. 新聞・雑誌コーナー

国際展示場2階中央モールに自動車に関する新聞・雑誌・専門書籍およびビデオカセットやCD-ROMを販売する新聞・雑誌コーナー（24社28小間）を設ける。

11. 連絡通路シェルター

雨天対策および会場の一体感を演出するため、イベントホールと北ホールの間にシェルターを設置する。

12. クリーン作戦

常時場内を巡回してゴミ処理を行うクリーンスタッフを常駐させ、清掃の徹底をはかる。

また燃えるゴミ、燃えないゴミの分別とアルミ缶の選別を行う。

なお、部品基礎小間の「システムパネル化」等により、廃材を削減し省資源に努める。

13. 前売入場券の委託販売

来場者の便宜を図るため、ショー会場売りの他、来場者の生活に密着した機関を通して、前売入場券は一般1,200円を1,000円、小中学生600円を500円（消費税込み）で販売する。主な委託機関は、JR東日本、主要コンビニエンスストア、プレイガイド、チケット取扱店、旅行代理店、書店、大学生協等である。

また、今回より新しい試みとしてホームページから直接入場券を購入出来る電子チケットのサービスを開始する。

14. 当日ナイター入場券の発売

前回に続き、会期中午後4時以降入場の場合は「ナイター割引」を実施する。

入場料は一般1,000円、小中学生500円で、会場窓口のみで発売する。

15. インターネット

第35回東京モーターショーホームページを開設し、インターネットを通じて世界に情報を発信している。

第35回東京モーターショーの概要をはじめ、テーマ館やシンポジウムといった特別企画の情報や東京モーターショーの歴史などを掲載している。

また会期中は会場で毎日発行するオフィシャルニュースペーパー「東京モーターショーニュース」を通じショーの様子を紹介する。

ホームページURL <http://www.motorshow.or.jp>（言語：日本語／英語）

会場管理

1. 出品者の入場方法

入場の際には「出品者入門証」をはっきりと提示すること。

1) 搬入・搬出期間および会期中開場時間前（会場30分前まで）

北ホールの出品者 = 北1ゲート、西2ゲート

西・中央・東・イベントホールの出品者 = 北2、西1、東ゲート

2) 会期中開場時間中

すべてのゲート（計6ヶ所）にて入場可

施工業者には、「出品者施工業者バッヂ」（1ヶ100円：会場搬入口のみの販売）を常時着用させること。有効期間：搬入・搬出期間及び会期中の会場時間外（閉場30分後から開場30分前まで）

2. 会場周辺の交通規制

会期中「北ホール～イベントホール間」において交通規制が実施される。

別図の通り、交通規制実施時間帯については、すべての車両は通行できないので、会場勤務者等への周知徹底をお願いしたい。

	場 所	交通規制時間帯
プレスデー、特別招待日 (10月24日～26日)	北ホール～イベントホール間	8:45～18:30
一般公開日 (10月27日～11月7日)	北ホール～イベントホール間	平 日 9:30～20:00 土休日 9:00～20:00

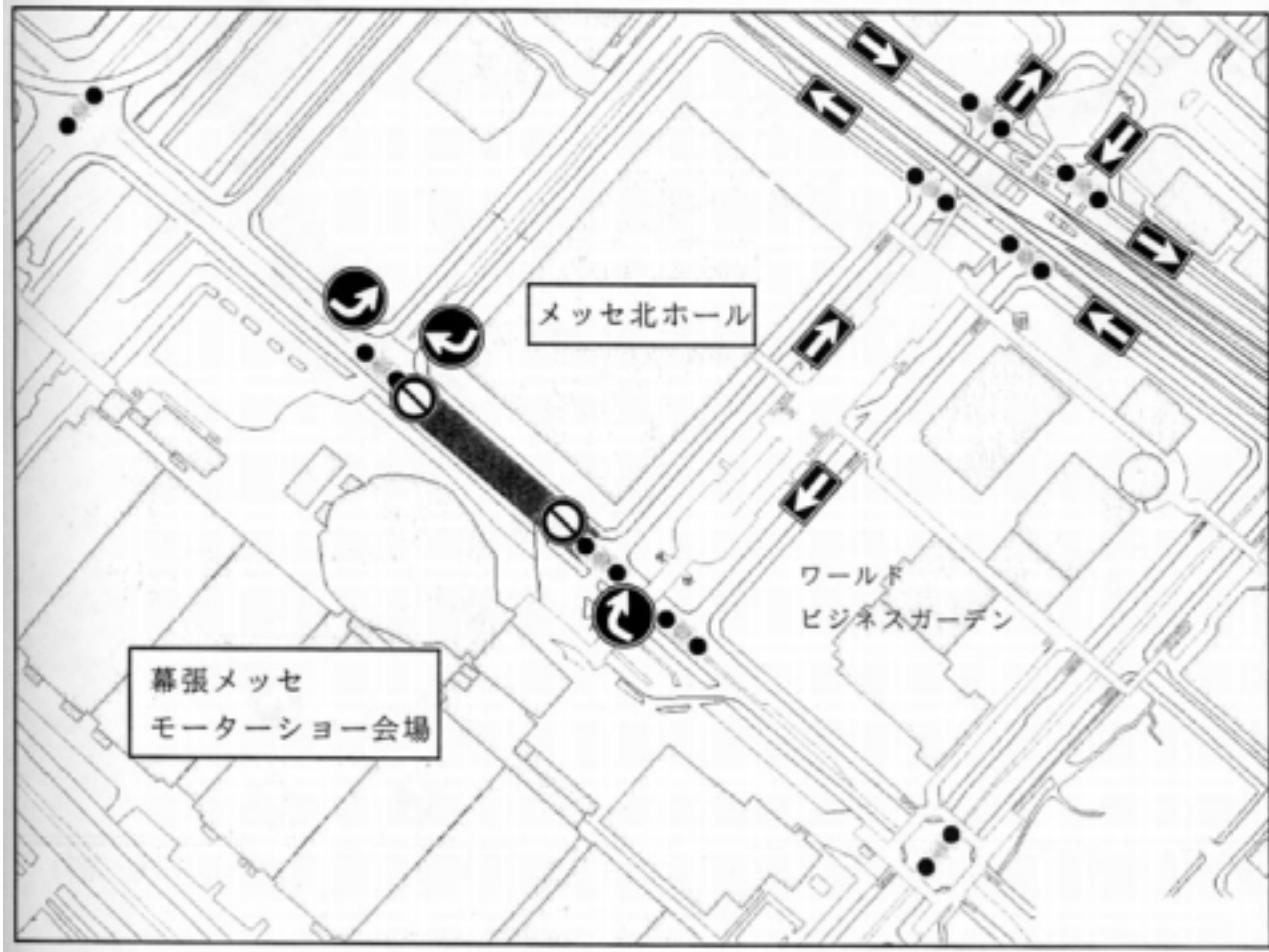
3. 盗難防止について

搬入期間中および会期中には、各小間内および控室等に多数の出入りが予想される。事務局では、従来より場内全般の安全管理のため巡回要員を配置する等、盗難・事故防止に努めているが、出品物等が盗難、火災、損傷等の損害が発生しても、事務局では一切その責任を負わない。出品者は施錠、障害・損害保険の加入など必要な予防措置を講じること。

東京モーターショーに伴う交通規制計画

平成13年10月24日(水)～26日(金)【プレスデー・特別招待日】

記号等	規制内容
規制時間	平日 午前8時45分から午後6時30分
	車両通行止め規制区間
	指定方向外進行禁止
	一方通行(常時)
	信号機



東京モーターショーに伴う交通規制計画

平成13年10月27日(土)～11月7日(水) 【一般公開日】

記号等	規制内容
規制時間	平日 午前9時30分から午後8時00分 土・休日 午前9時00分から午後8時00分
	車両通行止め規制区間
	指定方向外進行禁止
	一方通行(常時)
	信号機



第33回開催との相違

- 1 WBG東側一方通行路からメッセ大通り(一部)
に至る交通規制の見直し
- 2 西4駐車場に係る交通規制の取りやめ

4. 搬入・搬出について

1) 搬入期間

乗用車、二輪車部門：平成 13 年 10 月 16 日（火）午前 0 時～23 日（火）午後 6 時

部品部門、特別出品：平成 13 年 10 月 17 日（水）午前 8 時～23 日（火）午後 6 時

2) 搬出期間

全展示部門：平成 13 年 11 月 7 日（水）午後 8 時～10 日（土）午後 5 時

11 月 10 日午後 5 時までに撤去されない施設については、自工振事務局で適宜処分し、その撤去経費は出品者の負担とする。

3) 搬入・搬出における注意点

会場周辺の道路は駐車禁止になっており、厳しく規制されている上、会場内は大変混雑するので、規程に加え下記事項を厳守し、関係者への指示徹底を行うこと。

- (1) 積み降ろし作業はできるだけ短時間で行い、作業を終えた車両はすみやかに退出させること。
- (2) 搬入出車両は、指定待機場所で一時待機し、係員の指示に従い車両を移動させること。
(特に混雑が予想される、搬入、搬出初日)
- (3) 作業者は安全帽・安全靴を着用し、事故防止に万全の注意を払うこと。
- (4) 人員輸送のための車両は、搬入出期間ならびに会期中とも会場内へ乗り入れは厳禁となるので、最寄りの駐車場を利用すること。
- (5) 搬入・搬出作業は原則として小間内で行うものとし、特に場内外周通路での作業、駐車は原則として禁止する。
- (6) 出品者の搬入・搬出車両は、事前に配布する色別ステッカーにより、それぞれ指定の搬入出口を使用すること。

搬入出車両待機場所

展示ホール	搬入時	搬出時
全展示ホール	メッセ常設駐車場 L プロック（無料）	同 左 11 月 7 日午前 10 時オープン

4) 作業車両の優先入場について

搬出開始の11月7日は、会場内の混雑を緩和するため、乗用車及び二輪車部門の解体・撤去に伴う作業車両については、午後8時より優先的に入場可能とする。当該車両は、別途配布のステッカーを下記基準により配布するので、必ずフロントガラスに色別ステッカーと併せ掲示すること。その他の搬出車両は、午後9時より優先車両入場後に順次会場へ誘導する。

優先入場車両ステッカーの配布基準

展示部門	展示面積	枚 数
乗用車	2,000m ² 以上	5
	1,500m ² 以上～2,000m ² 未満	4
	600m ² 以上～1,500m ² 未満	3
	200m ² 以上～600m ² 未満	2
	200m ² 未満	1
二輪車	300m ² 以上	3
	200m ² 以上～300m ² 未満	2
	200m ² 未満	1

5) 開場時間中の場内への車両乗入れ

プレスデー、特別招待日を含む一般公開日の開場時間中は、会場内には緊急作業等の車両を除いて、原則として車両の乗入れを禁止する。同様に駐車等も禁止する。やむを得ずカタログ等を搬入する場合は手押しの台車等によることとする。

6) 開場時間外の搬入出

プレスデー、特別招待日を含む一般公開日の開場時間外の搬入出については、閉場30分後、開場30分前までとし搬入出口は下記とする。

西・中央・東・イベントホール：搬入出口（東2）

北ホール：搬入出口（西2、東3）

防災計画

東京モーターショーでは、関係当局のご指導、ご協力により「来場者の安全確保」を基本に下記の防災計画を実施する。

1. 防火対策（自衛消防隊の設置。消防自動車の会場内常駐）
2. 混雑対応（特に休日の対応）
3. 急病、怪我人などの対策（救護所の設置、救急車の会場内常駐）
4. 爆弾等脅迫行為等への対策（マニュアル化）

災害時に備え下記の対応策を講じる

1. 重点施策

1) 非常用通信設備の設置

災害時は電源の停止や設備の倒壊などにより、電話等の通信が使用不能となる可能性がある。情報の収集及び発信については、自己電源による第二、第三の連絡手段を確立して災害時に備える。

(1)非常用インターフォン	非常電源を持つ20局用の親機を事務局本部に置き、各ホール事務局、警備本部、消防本部等との連絡網を設置
(2)無線機の配備	携帯用小型無線機19台を各拠点に配備
(3)全体放送	事務局本部内に非常放送切換装置を設置
(4)非常用メガホン	各拠点に合計100台を常備(事務局、ホール事務局、警備室他) 出品者は小間内に1基以上を常備。(乗用車、二輪車部門出品者の協力)

2) 巡回警備の実施（不審物や脅迫行為等への対応）

(1)各ホール内の警備	各ホール内の巡回警備の徹底
(2)会場内の諸施設	各ホールのトイレ等、諸施設での不審物のチェックを定期的に実施

3) 防災組織の強化

災害時の自衛消防隊の組織強化策として、出品者（乗用車、二輪車）の協力による防災責任者の登録制度を採用する。登録された防災責任者が中心になって、初期消火、不審物の検索、来場者の避難誘導を行う。

4) 混雑時の安全確保

- (1)開場時の入場者誘導徹底
- (2)休日一方通行動線の実施
- (3)段差対策、突起物対策の徹底

5) 地震対応

(1) 地震の発生が予想されて判定会が招集された時

判定会の招集がテレビ、ラジオで流された時点で地震に対する対応の確認を行う。

警報が発令された場合

「地震の警戒が宣言されたため中止となる」旨の全館放送を実施すると同時に各ゲート及び駐車場、駅等に中止する旨の掲示を行う。

(2) 警報が宣言されずに地震が発生した場合（震度5以上）

地震が発生したと同時に、現場警察本部、消防本部と連絡をとりながら日本コンベンションセンターの自衛消防隊と協力し、別途施設の被害状況の把握、二次、三次災害の防止に努める。（ 初期消火 救護活動 避難誘導の実施 ）

6) 脅迫行為等の予告及び不審物への対応

(1) 脅迫行為等の予告

別途、緊急避難要領に基づき出品者、事務局それぞれの検索区分により不審物の有無について点検する。

(2) 不審物を発見した場合

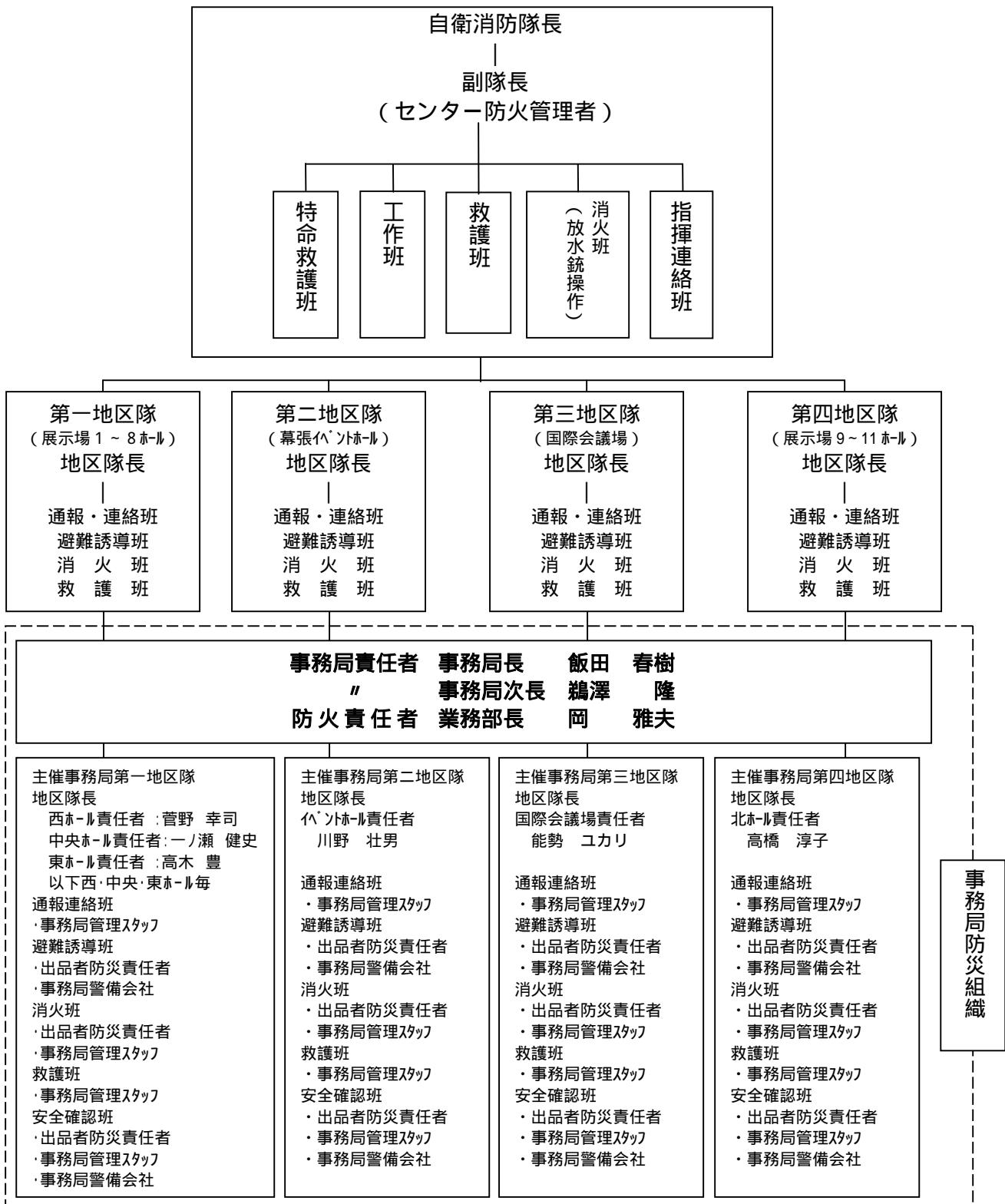
不審物発見時の連絡網に基づき、それぞれ連絡、県警本部、消防本部との協議指導のもと、警報伝達の要領により放送し避難誘導する。

以 上

2. 自衛消防隊の組織

災害発生時に応じるために自衛消防隊を組織するが、日本コンベンションセンターの自衛消防隊の組織内で活動するものとする。

日本コンベンションセンター自衛消防隊組織表
自衛消防本部隊



1) 事務局防災組織の任務（日本コンベンションセンター防災指針に準ずる）

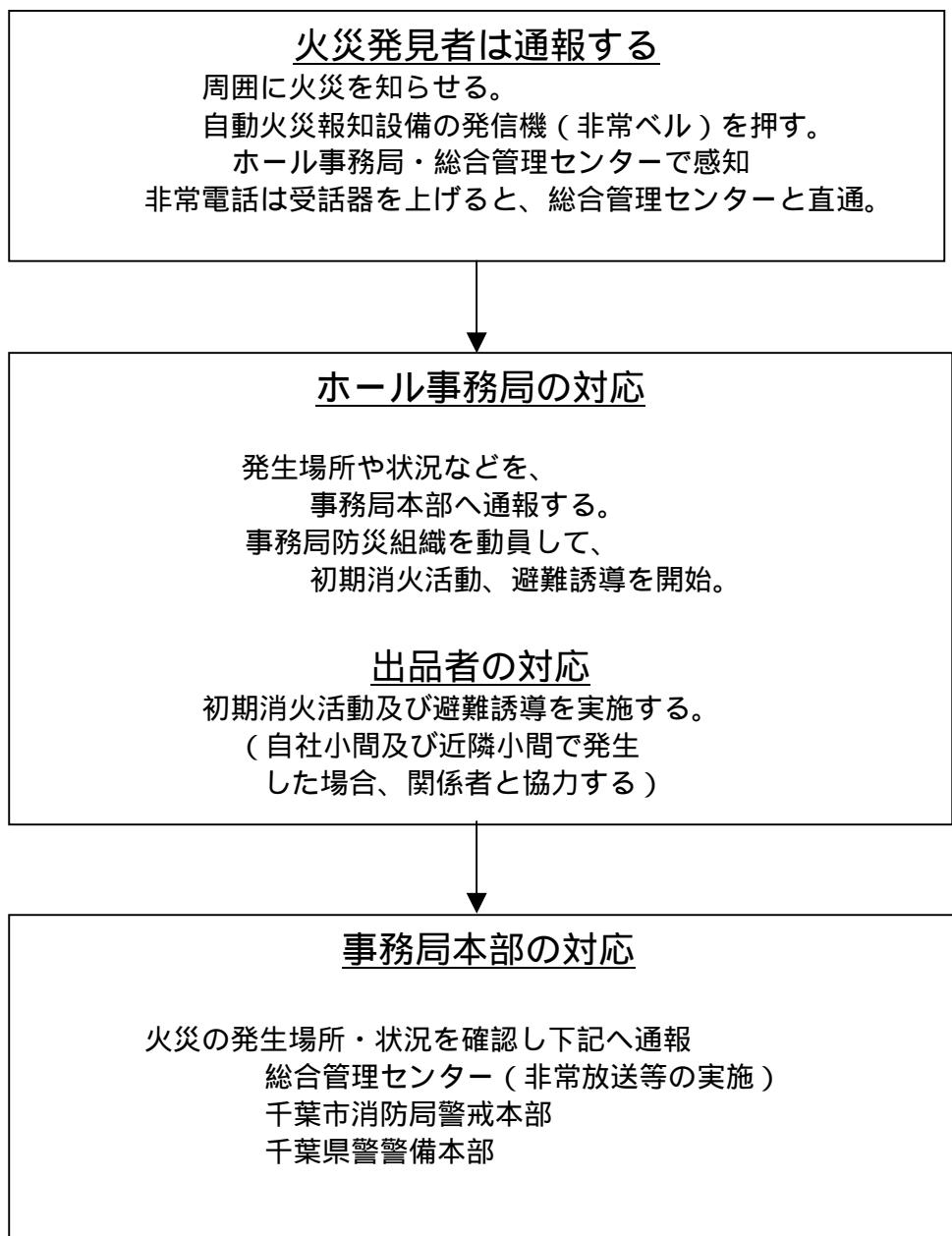
(1) 火災発生時

発見者	周囲に火災を知らせる。 近くの非常ベル（自動火災報知設備、発信機）を押す。 その他必要と思われる事項。
通報連絡班 (各ホール事務局)	火災が発生した時（自火報等の感知）は以下の要領で行動する。 火災状況の確認 事務局本部、総合管理センターへの連絡を行う。 ・事務局本部：043-296-7711（内線7000, 7001） ・総合管理センター：043-296-0531（内線3140） 総合管理センターが全体放送を通して避難誘導を行う。 「館内の皆様、○○展示ホールにて火災が発生しました。 係員の指示に従い、避難してください」 その他必要と思われる事項。
消火班 (出品者防災責任者) (事務局管理スタッフ)	火災が発生した場合は、以下の要領で消火活動を行う。 近くの消火器で初期消火を行う（消火器は複数使用する） 消火の状況を地区隊長（ホール責任者）に報告する。 自衛消防隊消火班、消防隊を誘導する。 (屋内消火栓を使用して消火活動)
避難誘導班 (出品者防災責任者) (事務局警備会社)	非常時はメガホン等を活用し観客を安全かつ迅速に誘導する。 パニック状態にならないよう落ち着いて対処する。 各非常口を一斉に開放する（シャッター等全て開放） 非常放送があった場合はその指示に従い、入場者に冷静な避難を呼びかけ、安全な方向の非常口に誘導する（大声で、身振り手振りで行う） 全員の避難を確認する。 避難誘導、負傷者の有無等を、地区隊長（ホール責任者）に報告する。 逃げ遅れた者がいる場合は救助する。 その他必要と思われる事項。
救護班 (事務局管理スタッフ)	負傷者又は病人が発生した場合に、手当てを行う。 症状が重い場合は通報連絡班と協力して救急車を手配する。 状況を地区隊長（ホール責任者）に報告する。

(2)平常時

通報連絡班 (各ホール事務局)	非常ベル等の位置を確認、すぐに使用できる状態にしておく。 非常用電話・非常放送設備の場所・使用方法等を確認。 非常用放送文（検索放送等）を確認しておく。 歩行中禁煙等の会場内規則を守るよう来場者及び出展者に呼びかける。 その他必要と思われる事項。
消火班 (出品者防災責任者) (事務局管理スタッフ)	消火器の位置、数量、使い方及び屋内消火栓の位置等を確認しておくとともに使用方法を覚えておく。 出品物として持込み許可を受けた危険物、裸火の実演等の場所（小間）を確認しておき、安全な状態で管理されているかどうか指導する。 タバコの吸い殻等、正しい始末の仕方を呼びかける。 その他必要と思われる事項。
避難誘導班 (出品者防災責任者) (事務局警備会社)	非常口の位置及び状態を確認しておき、非常の際に非難誘導がすみやかに行われるよう避難通路の確保をしておく。 その他必要と思われる事項。
救護班 (事務局管理スタッフ)	救護所の場所、救急病院の連絡先を知っておく。 その他必要と思われる事項。
安全確認班 (出品者防災責任者) (事務局警備会社) (事務局管理スタッフ)	小間内及び出品者控室等は出品者、 展示ホール通路、トイレ等の共通部分は事務局、 が定期的に点検し、安全確認・記録を行う。

3. 火災発生時の行動 (出品者と事務局の対応)

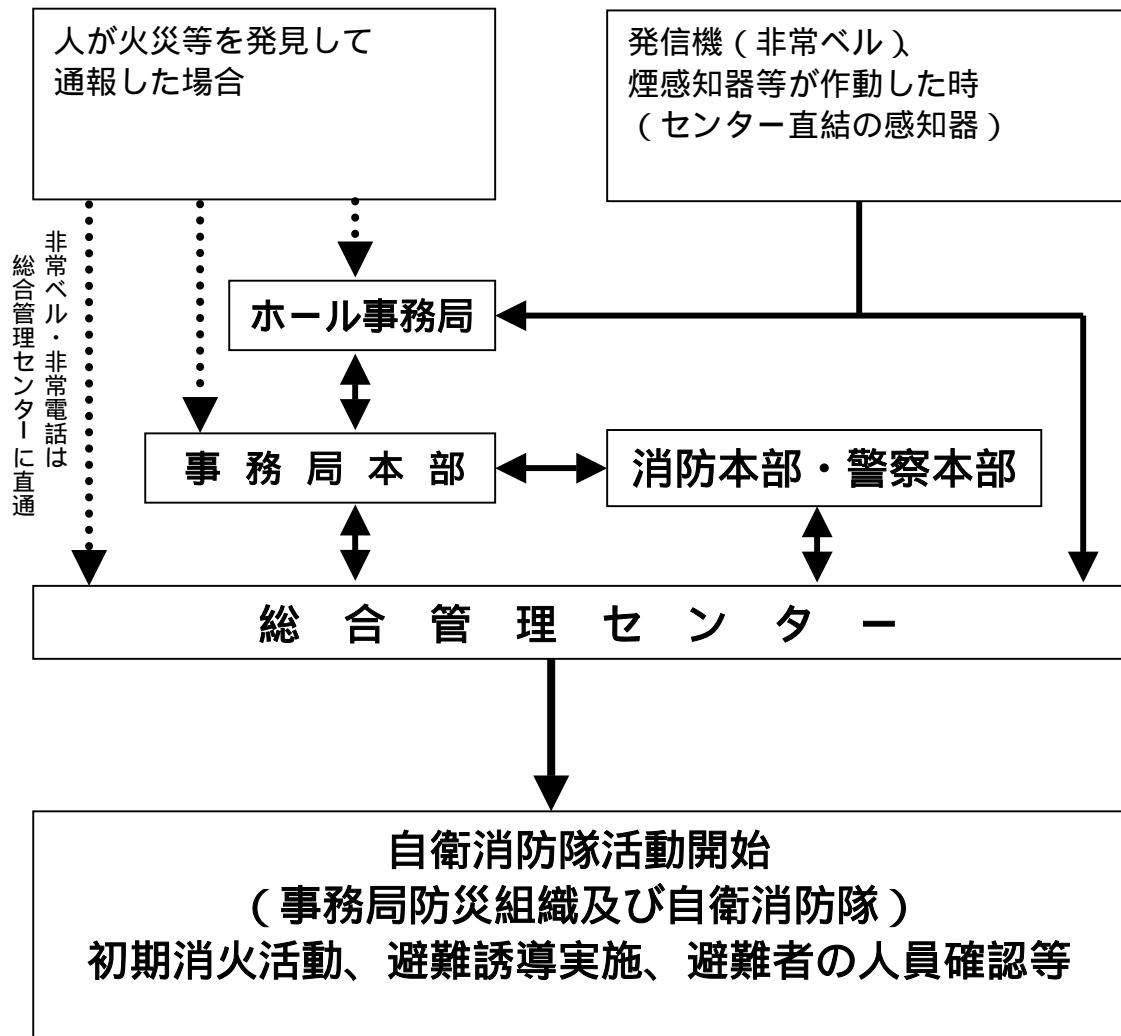


総合管理センターの非常放送（全体放送）で避難誘導を行う。
避難方向の指示（基本は火災発生場所と反対方向へ逃げる）
火災発生場所（ホール）への進入を規制する。

電話番号一覧	外線番号	内線番号
事務局本部	043-296-7711	7000, 7001
総合管理センター	043-296-0531	3140

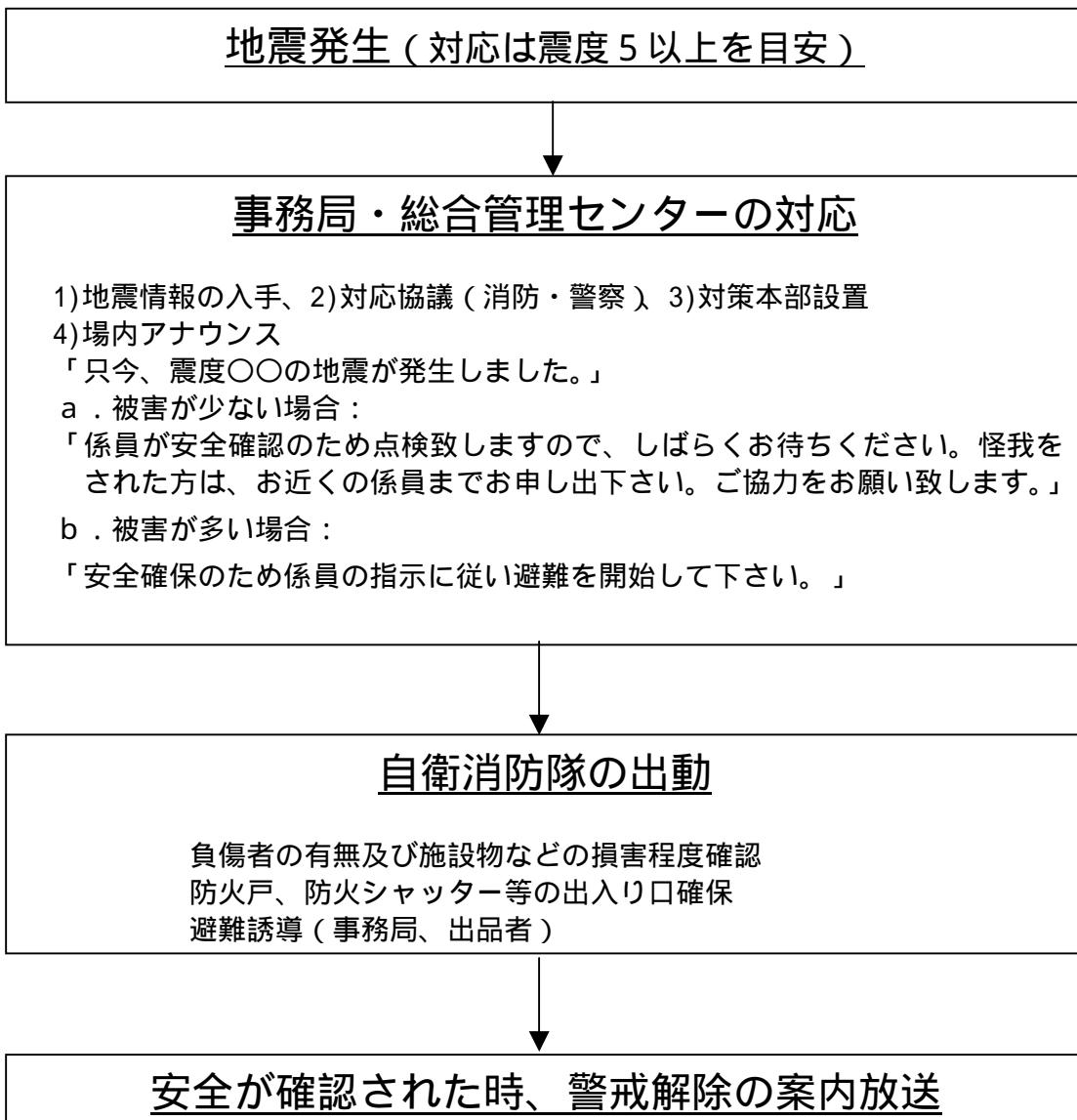
4. 火災等の通報系統図

(相互連絡)



- ・火災等の発生時には事務局防災組織を中心に初期消火と避難誘導を行なう。
- ・また自衛消防隊、消防本部隊を現場へ誘導し、その指示に従って活動する。

5. 地震発生時の対応 (事務局及び総合管理センター)



緊急連絡先	外線番号	内線番号
事務局本部	043-296-7711	7000, 7001
総合管理センター	043-296-0531	3140
千葉市消防局警戒本部	043-211-4672	7126
千葉県警警備本部	043-211-4680	7044

6. 不審物対応及び 緊急避難要領

1. 目的

第35回東京モーターショー会期中における一般来場者の安全確保をはかり、爆弾等脅迫行為及び火災・自然災害発生等の非常時において、人的被害等を最小限に軽減することを目的とする。

2. 自主警備

1) 出品者対応

- (1) 爆弾、有毒ガス等の脅迫電話の事件発生に備え、予め出品者、施工業者は会場へ持ち込んだ箱類には、会社名、品名、担当者名を付け、爆発物の早期発見に備える。
- (2) 各小間責任者は、自己の小間内において不審な物品等の有無について、常に細心の注意をもって点検する。

2) 事務局対応

- (1) 各展示ホール責任者は、開館及び閉館時において、不審な物品等の有無について常に細心の注意をもって点検する。
- (2) 各展示ホール責任者は、発見・連絡・対処について、常に細心の注意を払うこと。

3. 警報伝達

爆弾予告電話等の事態が発生した場合は次の様に対処を行う。

1) 電話を受信した者は落ち着いて対応し、通話となるべく長引かせ、ヒントになるようなことを聞き出す。

その内容を正確かつ迅速に事務局本部に通報する。

事務局本部は、ただちに総合管理センター並びに千葉県警警備本部、千葉市消防局警戒本部に通報し、その指示に従う。

2) 事務局本部は、事態の内容を速やかに分析して各展示ホールに対し、次の要領で放送を行なう。

(1) 検索のための放送（第一放送、事務局本部発）

業務放送、業務放送、自工振の飯田さん、事務局本部に連絡して下さい。

第一放送があった場合、「各展示ホール責任者」は、係員を指揮して検索責任区分を速やかに検索し、各出品小間内の検索報告も取りまとめて、直ちに事務局本部へ通報する。また、事件発生後の異常の有無などによる措置は、警察、消防当局の指示を得て事務局本部が直接「各展示ホール責任者」及び「各小間責任者」に連絡する。

(2) 検索責任区分

出品者

自己の出品小間内及び控室とする。

事務局

各展示ホール事務局及び通路、便所、その他共通部分とする。

日本コンベンションセンター

国際会議棟及びその周辺、ロッカーとする。

(3) 緊急避難を要する場合（第二放送、総合管理センター発）

ハンドマイクや非常放送等も使う。

館内の皆様にお知らせ申し上げます。

只今、展示ホールで不審な物件を発見しました。念のため検査しますので、係員の指示に従って、近くの非常口から避難して下さい。

(4) 避難場所（次ページ緊急避難誘導場所位置図を参照）

原則的には会場西側の「メッセ駐車場」及び海側の「千葉マリンスタジアム周辺」に避難する。また、第二放送によって避難した場合、「各展示ホール責任者」は別命があるまで避難した来場者の整理にあたる。

「各展示ホール責任者」は、避難誘導にあたり、必ず、備え付けの携帯用小型無線機を携帯し、連絡にあたる。

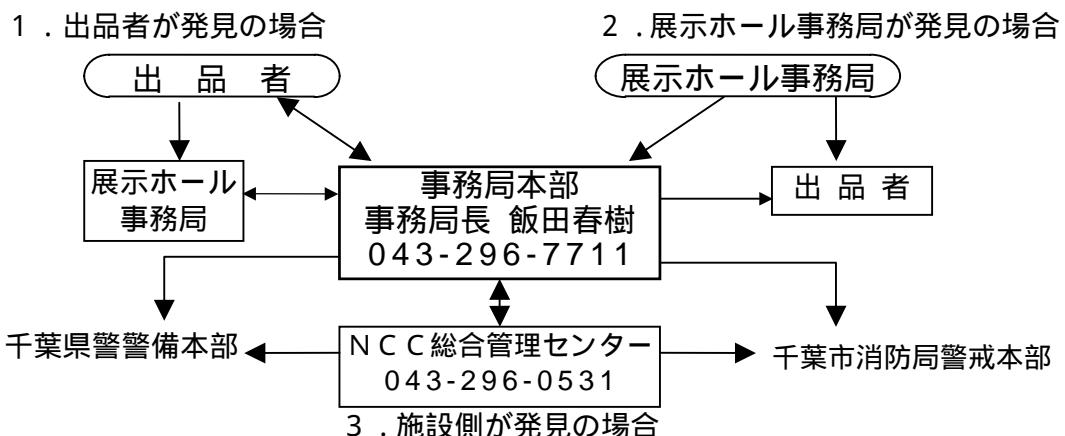
4. 警報解除

事務局本部は、安全を確認した場合は、直ちに関係者に連絡すると共に、警報解除サインとして「どうりやんせ」を全館に放送する。（3回繰り返す）

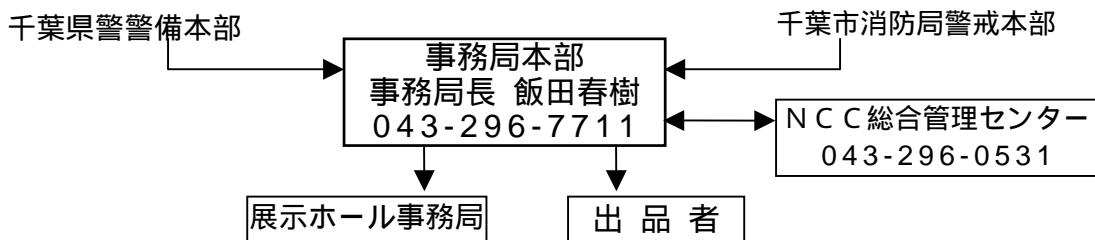
5. 災害時の対応

不審物発見、災害発生時については、上記にならい各展示ホール責任者は冷静に出品者、来場者を誘導する。

非常時の連絡網



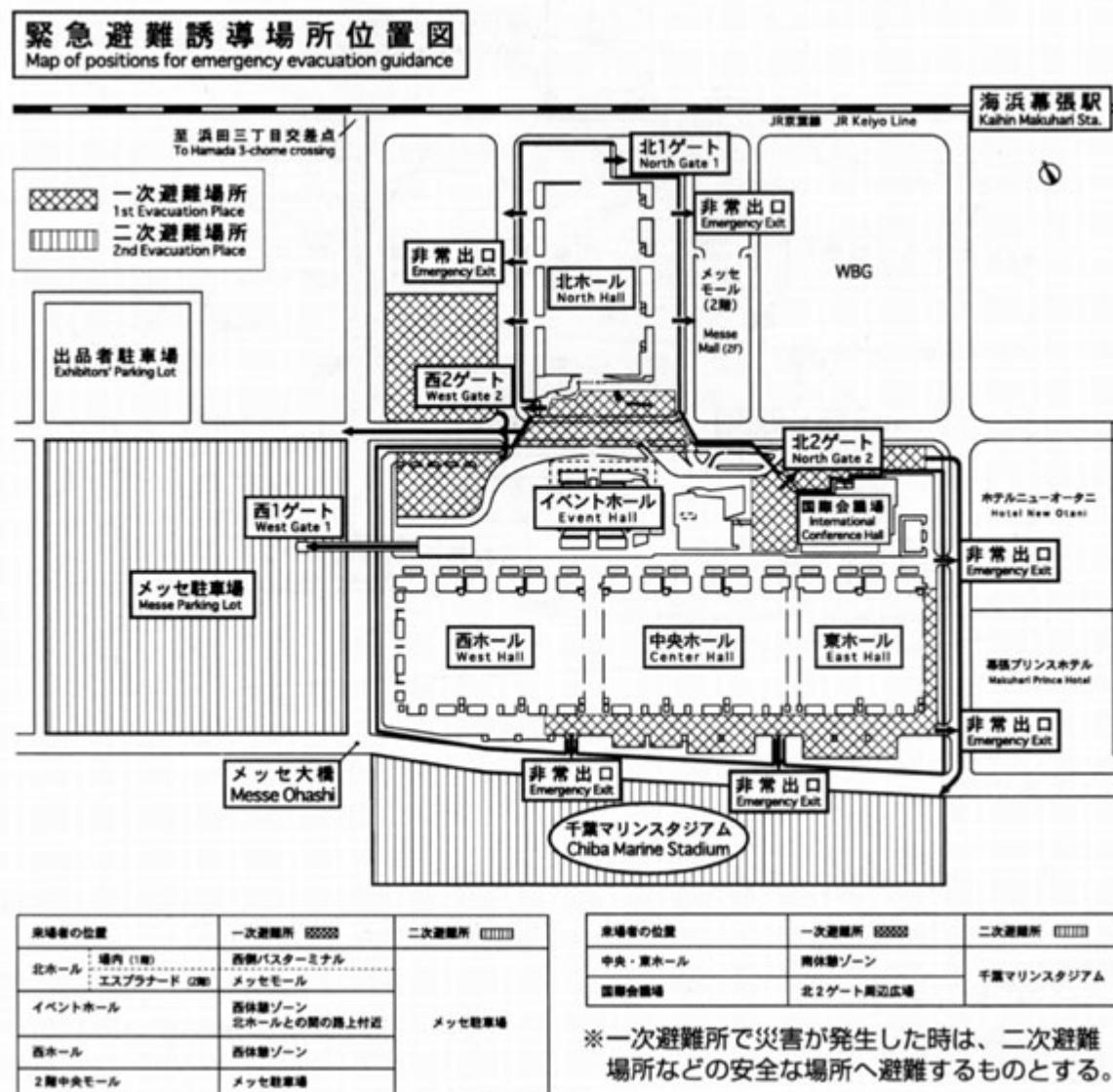
発見後の指示系統



6. 夜間の対応

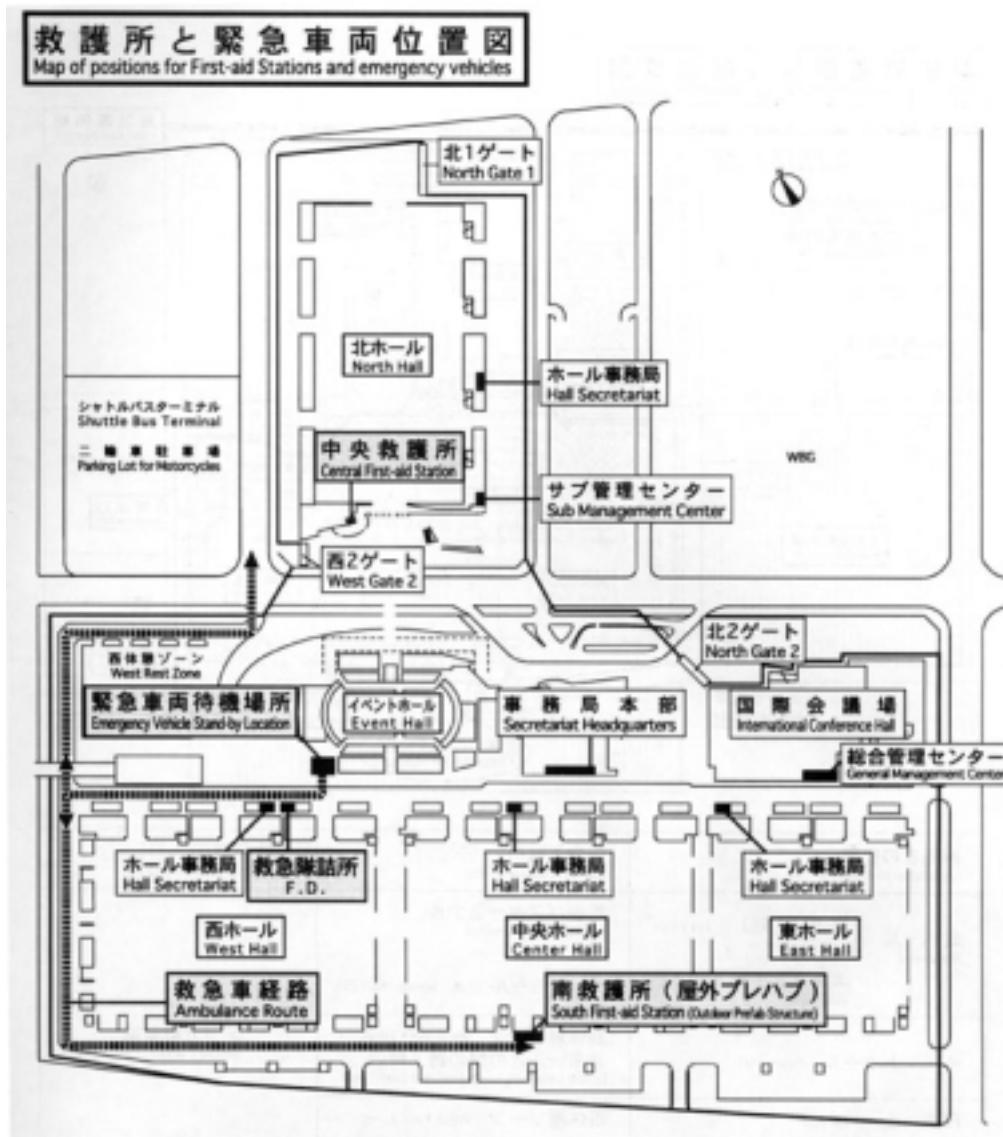
夜間は、事務局本部に新帝国警備保障、日本コンベンションセンターの総合管理センターに協和警備保障が警戒についており、事故の発生時には、相互に連絡を取り合い関係機関、関係者への連絡を行うものとするが、警察、消防機関への連絡は、施設警備の協和警備保障が確認を行う。

事務局本部 043-296-7711 (内線 7000, 7001)
総合管理センター 043-296-0531 (内線 3140)



7. 救護所及び救急・消防車両待機場所、病院について

会場内には救護所が2箇所（中央及び南）あり応急処置等を行う。
またイベントホール南側には、消防車と救急車が常駐している。
なお習志野第一病院はショー指定の医療機関として緊急対応を依頼している。



医療機関

習志野第一病院（東京モーターショー指定）

習志野市津田沼 5 - 5 - 25 Tel. 0474 - 54 - 1511

千葉市立海浜病院

千葉市美浜区磯辺 3 - 31 - 1 Tel. 043 - 277 - 7711

千葉健生病院 平日対応

千葉市花見区幕張町 4 - 524 - 2 Tel. 043 - 272 - 1211

東京モーターショーの記録(1)

回数	西暦	会期		期間 (日)	会場	入場料 税込(円)	会場内 面積 (m ²)	展示小 間面積 (m ²)	出品 会社数 (社)	出品 車両数 (台)	入場者数 (人)	
		元号	年									
1	1954	昭和	29	4.20 ~ 4.29	10	日比谷	無 料	14,999	4,389	254	267	547,000
2	1955	"	30	5.07 ~ 5.18	12	"	無 料	14,999	4,689	232	191	784,800
3	1956	"	31	4.20 ~ 4.29	10	"	4/20~22=20、以降無料	14,999	5,405	267	247	598,300
4	1957	"	32	5.09 ~ 5.19	11	"	20	14,999	6,049	278	268	527,200
5	1958	"	33	10.10 ~ 10.20	11	後楽園	30	28,050	6,094	302	256	519,400
6	1959	"	34	10.24 ~ 11.04	12	晴海	50	44,653	8,996	303	317	653,000
7	1960	"	35	10.25 ~ 11.07	14	"	50	44,653	11,025	294	358	812,400
8	1961	"	36	10.25 ~ 11.07	14	"	100	79,236	13,470	303	375	952,100
9	1962	"	37	10.25 ~ 11.07	14	"	100	107,710	21,209	284	410	1,049,100
10	1963	"	38	10.26 ~ 11.10	16	"	100 (プレミアショ- 500)	141,756	28,921	287	441	1,216,900
11	1964	"	39	09.26 ~ 10.09	14	"	100 (プレミアショ- 500)	137,002	34,889	274	598	1,161,000
12	1965	"	40	10.29 ~ 11.11	14	"	100 (プレミアショ- 500)	136,002	36,800	243	642	1,465,800
13	1966	"	41	10.26 ~ 11.08	14	"	120 (チャリティショ- 500)	148,433	39,089	245	732	1,502,300
14	1967	"	42	10.26 ~ 11.08	14	"	200 (チャリティショ- 500)	125,086	35,732	235	655	1,402,500
15	1968	"	43	10.26 ~ 11.11	17	"	200 (チャリティショ- 500)	139,356	39,819	246	723	1,511,600
16	1969	"	44	10.24 ~ 11.06	14	"	200 (チャリティショ- 500)	128,693	38,552	256	722	1,523,500
17	1970	"	45	10.30 ~ 11.12	14	"	250 (チャリティショ- 500)	134,967	41,298	274	792	1,452,900
18	1971	"	46	10.29 ~ 11.11	14	"	250 (チャリティショ- 500)	122,247	33,550	267	755	1,351,500
19	1972	"	47	10.23 ~ 11.05	14	"	250 (チャリティショ- 500)	108,103	26,395	218	559	1,261,400
20	1973	"	48	10.30 ~ 11.12	14	"	300	115,720	34,232	215	690	1,223,000
21	1975	"	50	10.31 ~ 11.10	11	"	500	108,074	28,381	165	626	981,400
22	1977	"	52	10.28 ~ 11.07	11	"	600	117,500	30,633	203	704	992,100
23	1979	"	54	11.01 ~ 11.12	12	"	700	117,500	34,969	184	800	1,003,100
24	1981	"	56	10.30 ~ 11.10	12	"	800	114,700	34,332	209	849	1,114,200
25	1983	"	58	10.28 ~ 11.08	12	"	800	111,650	35,130	224	945	1,200,400
26	1985	"	60	10.31 ~ 11.11	12	"	900	114,780	40,734	262	1,032	1,291,500
27	1987	"	62	10.29 ~ 11.09	12	"	900	112,800	38,662	280	960	1,297,200
28	1989	平成	1	10.26 ~ 11.06	12	幕張	1000	173,820	41,844	338	818	1,924,200
29	1991	"	3	10.25 ~ 11.08	15	"	1200	210,300	45,635	336	783	2,018,500
30	1993	"	5	10.22 ~ 11.05	15	"	1200	211,300	46,924	357	770	1,810,600
31	1995	"	7	10.27 ~ 11.08	13	"	1200	211,300	47,941	361	787	1,523,300
32	1997	"	9	10.24 ~ 11.05	13	"	1200	211,300	48,693	337	771	1,515,400
33	1999	"	11	10.22 ~ 11.03	13	"	1200 (乗用車・二輪車)	211,300	45,394	294	757	1,386,400
34	2000	"	12	10.31 ~ 11.04	5	"	1000 (商用車)	133,000	24,773	133	251	177,900
35	2001	"	13	10.26 ~ 11.07	13	"	1200 (乗用車・二輪車)	211,300	42,110	280		

(注) - 1 出品台数は4・3・2輪車の合計(部品、機械工具、関連商品の出品点数は含まない。)

- 2 '74、「76、「78、「80、「82、「84、「86、「88、「90、「92、「94、「96、「98年は休催。

東京モーターショーの記録(2)

回数	特 別 企 画 ・ 催 物		
1	P R 館 (自動車のできるまで) 小学生图画コンクール (5回まで)	自動車の集い 記念講演会	写真コンクール (第9回まで)
2	P R センター (自動車工業は総合工業) 自動車とともに (技術講演会)	自動車ショウの集い (ちえのわくいらぶ) 模型自動車コンクール (三越会場で展示)	
3	P R 館 (自動車の歴史)	自動車の集い	3大学ボスター・コンクール (芸大・教育大・千葉大)
4	P R センター (道路・交通、自動車デザイン)	自動車相談所開設 (15回まで)	
5	展示コンクール (17回まで)	技術対談 (吉白・桶谷)	自動車デザイン座談会
	P R センター (交通道徳の向上)	テクニカルセンター	ピンテージホール (外車6台、国産8台) P R 映画館
6	P R センター (明日の自動車)	モーターライブラー (10回まで)	
7	P R センター (新道交法早分かり)	懸賞論文募集 (新しい道路交通のあり方)	アンケート調査実施
8	P R 館 (貿易自由化を控え国産車愛用運動展開)	らくがきコーナー (有名人18名の寄稿)	
9	P R 館 (国産車愛用と交通問題)	テクニカルコーナー ムービーセンター	
10	P R 館 (国産車愛用)	テクニカルセンター	10周年記念行事 (日劇観劇会、ホテルオークラ) 試走場 (12,000m ²) 記念アルバム
11	P R コーナー (日本の道路、現状と将来)	ムービーセンター	世界のポスター展 (内外85点)
12	P R コーナー (自動車技術の優等生)	ムービーセンター	試乗会 (報道招待日とプレミアムショーの2日間: 16回まで)
13	P R コーナー (" You best Driver " 交通安全、排気ガス)		
14	P R コーナー (交通安全科学コーナー、交通安全、排気ガス)		
15	安全科学コーナー (安全と公害)	ムービーコーナー	子供の交通安全教室 (ゴーカート10台)
16	安全科学センター (高速道路の安全な走り方、公害、CO対策)	車両診断コーナー	安全点検教室
17	安全公害センター (人と車のよりよい明日を)	安全点検教室	
18	C.V.S.モデル実験	安全点検教室 モータースポーツ百科	チャリティサイン会 ムービーコーナー
19	安全と公害コーナー		
20	20回ショー記念行事「くるまの歩み」	写真コンクール	
21	テーマ館 (くるまとくらしと私たち) 産地直送販売	ファミリーバイクランド 日本自動車研究所見学会	特種車展示始まる 輸出専用船の公開 トークイン'75「くるまとくらし」(以後毎年開催)
22	テーマ館 ('くるまがかたる' - 日本の自動車 戦後30年のあゆみ -)		ナショナルデー設定
23	テーマ館 (日本の自動車エンジン技術)		
24	テーマ館 (TODAY'S AUTO ENGINEERING)		
25	テーマ館 (くるま - むかし、いま、あした)	25回ショー記念講演会 ('日本人とくるま' - むかし、いま、あした)	
26	テーマ館 (X氏のデザイン・ハウス)		
27	テーマ館 (現代のくるま技術)		
28	特別企画 - トーキョー カーデザイン展・児童画展	入場者累計3千万人記念行事	南休憩ゾーン
29	特別企画 - テーマ館 " Think Safety " 「安全の技術を考える」 幼児くるま絵画展	トーキョー	カーデザインギャラリー
30	ショ-30周年記念事業 (環境保護事業に寄付、テーマ館特別展示、サテライトスタジオ30、モーターショー総合ガイド発行、オフィシャルグッズ販売、ショ-記録映画1回~29回)		
31	特別企画 - テーマ館「夢と冒険を乗せて走ったくるまたち」 インターネットでショー情報発信	自動車ガイドブックCD-ROM発行 阪神大震災映像コーナー	
32	特別企画 - テーマ館「思い出の名画を彩ったくるまたち」 幼児くるま絵画展	テクノギャラリー「知っておきたいくるまの基礎知識」	
33	特別企画 - テーマ館「日本のくるま100年 - 過去は未来のヘッドライト」 幼児くるま絵画展	インターネットでモーターショー情報発信	自動車ガイドブックCD-ROM発行 VICS試乗会 東京モーターショー全記録CD-ROM発行
34	特別企画 - 商用車試乗 (同乗試乗)会	シンポジウムの開催 (専門ユーザー対象、一般ユーザー対象)	「ロゴカー」の販売
35	特別企画 - テーマ館「その時 - 日本の技術が時代のトピラを開いた。」 幼児くるま絵画展	シンポジウム: トーキン2001「Open the door! これからのくるま、これから的生活。 - 世代によるクルマの魅力と価値感 - 」	

東京モーターショーの記録(3)

(敬称略)

	備考	企画設計者	ポスター制作
1 2 3	名称「全日本自動車ショウ」(英・TOKYO MOTOR SHOW) ショーマーク決定 自動車行進曲発表 皇太子殿下初来場(以後毎年来場20回まで)	橋本哲郎 小槻貫一	- -
4	車種別展示 海外向パンフレット(海外宣伝始まる)	清家貫他 小槻貫一	黒木清夫(千葉大三生) 山下敦也(千葉大三生)
5	めぐりあいの場初登場	山口正城他	高沢圭一
6	以後屋内展示、車種別展示となる 抽選付き入場券、賞品車提携(15回まで)	山口正城他 山口デザイングループ	石川滋彦(和) 〔山口正城他〕 伊藤憲治
7 8 9 10	南ゲート新設 ラジオ広報始まる ナイター2日間(8時まで) 東京オリンピック資金財団へ寄金(10回まで) 会場外周一方通行 海上輸送始まる 海外PR映画製作(英・西語) 乗用車2館、商業車3館となる プレミアムショー開始、純益は中央協同募金会へ(19回まで)	森崇他 小池新二他 小池新二他	伊藤憲治 亀倉雄策 村越 裏
11 12 13 14 15	プレスルーム開設(各社の見どころ発行) 外国メーカー(3社)初参加 名称『東京モーターショー』と改称 モデルの規制 ベビーカー100台設置 新聞、雑誌コーナー オーナーズホール新設(18回まで) 記念品中止 都バス乗降場、南ゲートへ 広報ステッカー(4種)製作 二輪車A Bゾーンに分離 モデルの使用禁止、技術説明員登場 商業車館、共同照明、モーターショーエック設定(17回)	森 崇 他 森 崇 他 森 崇 他 森 崇 他 森 崇 他 森 崇 他	勝井三雄 田中一光 永井一正 清原悦志 長友啓典 長友啓典
16 17 18 19 20	安全標語の募集と技術相談コーナー解説(メーカー) 外国乗用車本格参加 一般車の乗り入れ規制始まる 乗用車館共通道路ルーケット共同施工 大型商業車不参加(19回まで) 買物バス運行開始 外国乗用車個別展示となり、国産と混合展示(21回まで)オーナーズホールの併合 各社安全、公害コーナー設置 部品館にカナダが初の政府出品 翌年のショー開催中止を決定。	森 崇 他 森 崇 他 森 崇 他 森 崇 他 森 崇 他	図書印刷 勝井三雄 B全中止 香西一雄(B3のみ) B全中止
21 22 23 24 25	テーマ:くらしをくるまにのせて 乗用車館の展示構成を設ける(触れる、見る) ショーは今後、隔年開催となる。 テーマ:みんなのくるま、みんなのせかい 部品館、英国政府など各国メーカー大挙参加 テーマ:80年代の豊かさへ...せかいを結ぶくるまたち 翌年に大阪で初の地方ショー開催 テーマ:よりよい暮らし、確かなるま テーマ:くるま、いきいき、ひろがる世界	泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他	電通(B全、復活) 電通 松下 裕 浅葉克己 福田 毅
26 27 28 29 30	テーマ:走る文化。 くるま新時代。 テーマ:走る喜び。人とくるまのトキメキ未来。 テーマ:自由走。ハートが地球を刺激する。 テーマ:発見、新関係。人・くるま・地球。 仮設展示館(18,200m ²)建設 テーマ:くるま、イノベーション。自由に、快適に。 <u>ECOLUTION IN CAR INNOVATION (ECOLUTION=ECOLOGY+EVOLUTION)</u>	泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他	サイトウマコト 井上嗣也 大木理人 佐藤晃一 亀倉雄策
31 32 33 34 35	テーマ:感じる夢。感じるくるま。 テーマ:つ・な・ぐ・あなたとくるま。 新北ホール(18,000m ²)完成 メーカー別展示 ナイター割引(16時以降入場) テーマ:未来発走。くるまが変わる。地球が変わる。 乗用車・二輪車ショー ナイター割引(16時以降入場) テーマ:個性満載。地球を走る。明日をつくる。 初めての商用車ショー ショーガイドの発行 テーマ:Open the door! くるま。未来を「ひ・ら・く」 グループ別展示	泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他 泉 真也他	松永 真 栗津 潔 芹澤 博 佐藤雅彦 〔上矢 津〕 中村直展